

関市と黄石市 お互いに 60周年



友好都市提携を結んでいる中国・黄石市と関市はともに本年、市制60周年を迎えました。10月15日の関市での記念式典に黄石市から副市長ら9人の訪問団が出席しました。市役所では、尾藤市長ら

が消防団のラッパ隊や地元保育園児の鼓笛演奏などで歓迎しました。両市がより深い絆で結ばれ、お互いに手を携えて子々孫々にわたって発展することを願い、今後も親善と交流を深めます。

あんな事、こんな事



平和だからこそ、こんなに楽しい

沖縄のシンガーソングライターのユキヒロさんがプロデュースする平和の音楽の祭典「ピースベルフェスティバル」が洞戸中学校で行われました。ユキヒロさんは音楽を通して平和を呼びかける活動を続けていて、今回は全国で5番目の音楽祭典となりました。洞戸小の鼓笛隊合奏や洞戸中の生徒合唱、美濃乃國高賀山太鼓、ハンドベルなど約200人が参加。日本の真ん中から平和への想いと喜びを歌いました。

お日さまに感謝

「刀都」関市の秋の一大イベント、今年で第43回を数える恒例の刃物まつりが、本町通り商店街を中心に開催され、多くの観光客でにぎわいました。初日はあいにくの雨天で客足が鈍ったものの、2日目は秋晴れの好天となって、販売市は会場を埋め尽くすほどの盛況となりました。古式日本刀鍛錬やアウトドアナイフショー、居合道実演など多彩なイベントで行楽日和の「刃物のまち」を実感しました。





祝・結婚50年

金婚夫婦を対象に、わかさ・プラザで「金婚を祝う式」が開かれました。式典で尾藤市長は「夫婦円満に50年を迎えられることは大変幸せなこと。お互いに助けあい、今後も私たちの模範として健康で末永くお過ごしを」と祝辞を述べました。半世紀を連れ添ったご夫婦たちは、市の特産品などを受け取り、記念講演を聴きました。

自然の里山で心をリフレッシュ

百年公園で、秋恒例の「オータムフェスティバル」が開催されました。名物の焼いもコーナーや、紅葉の下で中学生のたてる抹茶を味わう野点コーナーが人気を集めました。ステージでは、園児たちによるかわいらしい鼓笛や和太鼓の演奏、関市消防音楽隊の吹奏楽演奏などがあり、紅葉の美しい園内で大人も子どもも楽しい催しを満喫していました。



武儀の「秋の風物詩」

下之保の高澤観音で「ムーンライトコンサート in 高澤 2010」が開かれ、月あかりが照らす名刹に心地よい音色や歌声が響きわたりました。武儀地域の音楽好きな仲間が集まり、このコンサートも5年目となりました。市民の手で長く続けてきたことは、まさに地域の文化です。参道を埋めた観客は、幻想的な舞台で都会的なボサノバや軽快なラテン音楽など、満喫できる喜びを感じていました。

女性の夢ある社会を考えます

地域女性の会連合会主催の「婦人の夢フォーラム」が開かれました。文化に触れることを目的にヘルマンハーブの演奏と落語の口演が行われ、参加した赤ちゃん連れの若いお母さんたちは、澄んだ音色を聴き入ったり、笑い声を上げたり、楽しいひと時を過ごしました。今後も環境保全や福祉などに関する研修会を開催し、生きがいのある生活、夢ある社会を考えます。



こぼれ話



先日、瀬尻小学校の宿泊体験学習の取材に行ってきました。その日は近くの池や水路、ビオトープの生物をグループに分かれて調査しました。その結果、ブラックバスなど外来種が食べるのでできない大きなコイが残って、在来種が少なくなっていることや、水路がコンクリートなどによって整備されたことで水流が速くなり、緩やかな流れを好む魚が減ったのではないかなど、生態系の環境が変化していることが分かりました。地元の方に昔の池の様子

などの話を聞き、昔との違いを知り、環境保護団体や河川研究所の方の話を聞くことで、これからどうしていくことが大切かを学びました。

私も先日「国内外来種」という言葉を知りました。外来種は、私の認識不足も手伝って外国からきたものだという印象でしたが、昔から日本国内にいる生物でも、本来の生息地以外に放流されたりすることで、本来の生態系に影響を与えてしまうというものです。

環境保全は奥が深いなあと実感しながら言葉をひとつ覚えました。